

令和5年度 江戸川区立東葛西中学校 学校関係者評価 最終評価報告書

学校教育目標	<ul style="list-style-type: none"> ・自ら進んでよく学びよく働く生徒になろう。 ・心身ともに健康で粘り強い生徒になろう。 ・豊かな個性を育て社会に役立つ生徒になろう。 	目指す学校像	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が自ら考え、判断し、行動を起こし、日々成長を実感できる学校。 ・人権尊重の精神を生かし、自分も他人も大切に、いじめのない学校 ・教職員一人一人が力を最大限に発揮し、使命感をもって生徒の育成に努める学校
前年度までの学校経営上の成果と課題	<p><成果> 全国学力調査の国語・数学で国・都の平均を上回ることができた。教員実施の授業アンケートでは80%をこえた。いじめ対応については早期発見早期対応徹底され長期間にわたるいじめは起こっていない。教職員の働きかけにより「みそあじ」への生徒の意識が向上した。PTA・おやじの会との連携・協力体制が確立した。</p> <p><課題> 下位層の生徒への対応に向けての教員の授業力向上の向上。不登校生徒の多様化に対応した外部機関との連携を含めたきめ細かな対応。保護者・地域との連携を深めるための積極的な情報公開。「みそあじ」のさらなる定着に向けた生徒会による働きかけ。</p>		

教育委員会重点課題	＜取組項目＞・評価の視点	具体的な取組	数値目標	自己評価			学校関係者評価		年度末に向けた改善策
				取組	成果	成果と課題	評価	コメント	
学力の向上	＜学力の向上＞ ・授業改善の推進、学習の基盤となる基礎・基本の確実な習得、家庭学習習慣に対する学校の組織的な対応による取組の実施・充実	<ul style="list-style-type: none"> ・授業毎での目標の提示・振り返りの時間の設定し、内容や場面に応じた見通しのもてる授業を展開する。 ・一人一台タブレット端末を含むICT機器の効果的活用により、学びの深化が図れる指導を充実させる。 ・生徒同士の話し合い活動、教員や先哲の考えとの対話を通して、自己の考えを広げ深める授業を展開する。 ・質問教室や放課後学習教室を効果的に活用し下位層の底上げを図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の授業満足度80%以上にする。 ・全国学力学習状況調査で全教科、全国・都の平均を上回る。 ・タブレットを中心としたICT機器を効果的に使う場面を80%以上の授業で設定する。 	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・全国学力学習状況調査で実施教科で全国の平均を上回り、都の平均を国語・数学で上回った ・生徒授業アンケートで以下の結果が明らかになった、改善を進めていく。 *「授業がわかりやすい」の項目で全教科で肯定的な意見が80%を超えた。 *「タブレット端末等の活用によって2教科で否定的な意見が50%を超えた。 *「話し合い・学びあい」の項目で肯定的な意見が70%以下の教科が5教科出ている。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・全国学力学習状況調査の実施教科で全国の平均を越えている。「授業がわかりやすい」の項目で全教科で肯定的な意見がでているなど成果がみられている。今後もさらなる向上をお願いしたい。 	授業改善の推進、学習の基盤となる基礎・基本の確実な習得、家庭学習習慣を付けさせる組織的な取組を継続して実施していく。
	＜読書科の更なる充実＞ ・読書を通じた探究的な学習の実施・充実	<ul style="list-style-type: none"> ・学校図書館支援員、PTAボランティアと連携した利用時の機能の充実する。 ・生徒会による広報活動を充実させる。 ・ビブリオバトルを通した生徒の読者への意欲の醸成させ、校外学習等での説教的な活用により、探求的学びの充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館利用率を前年度を上回る。 ・生徒の読書量の増加。 	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・学校図書館支援員とPTAボランティアを連携させ機能の充実を図った。 ・図書館利用率を前年度を上回る。 ・生徒の読書量の増加。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館利用率を前年度を上回り、生徒の読書量の増加がみられるなど成果が上がっている。最近の生徒が読書をする機会が減少している。読書科における学校の取り組みを今後も充実してほしい。 	読書科を通して、探究活動を充実させ、生徒の自ら考え行動する力の育成を図る。
	＜外国語教育の推進＞ ・授業力向上とALTの効果的な活用	<ul style="list-style-type: none"> ・有効的なALTの活用を進め、生徒が楽しんで授業の取り組めるように授業を実施する。 	生徒の興味関心度80%以上。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒授業アンケートで「目標の提示と振り返り」の項目で肯定的な移管が80%未満の学年が2学年出ている。改善を図る。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・3年生スピーキングテストの結果が上位になるなど英語教育での充実がみれる。引き続き効果的な指導をお願いしたい。 	ALTと英語科教員との連携を深め、生徒が楽しんで意欲的に取り組める授業を行い、学力の向上に努める。
体力の向上	＜運動意欲や基礎体力の向上＞ ・「運動意欲の向上」に向けた取組の実施と充実	<ul style="list-style-type: none"> ・保健体育科の授業で技能の習得だけでなく、基礎体力向上を目指したトレーニングを実施する。 ・部活動では生徒に適切な運動の機会を与える。 	東京都の体力調査の平均を上回る。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・東京都の体力調査で男女とも全学年で体力合計点で東京都の平均を上回った。下回った項目の改善方法を検討する。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・体力調査の体力合計点で東京都を上回るなど計画的な取り組みがみられている。運動する習慣の少ない生徒への働きかけを今後も継続してほしい。 	基礎体力のさらなる向上を目指し、授業中の基礎トレーニングを計画的に実践していく。 ・部活動において生徒に適切な運動の機会を与え、体力の向上を図っていく。
共生社会の実現に向けた教育の推進	＜特別支援教育の推進＞ ・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた個に応じた指導の実施・充実 ・エンカレッジルームの活用促進 ・副籍交流、交流及び共同学習の実施・充実	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援研修会「教育相談について」を実施し、教員の教育相談についての理解を深める。 ・エンカレッジルームでの給食登校を実施し、利用を促進する。 ・副籍交流を充実させ生徒の多様性を認める意識を醸成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援研修会「教育相談について」を実施する。 ・エンカレッジルームの利用者を前年度よりも増加させる。 ・副籍交流において直接交流を年間2回以上実施する。 	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援研修会「教育相談について」を実施した。 ・副籍交流において直接交流を年間2回以上実施する予定である。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・エンカレッジルームの利用者を前年度よりも増加させるなど、特別支援教育の充実がみられている。生徒の特性を理解した教育を推進してほしい。 	特別支援教育コーディネーターを中心に学校全体で組織的に生徒理解につとめる。さらに特別支援教育委員会でも対応方針を決定し各学年に提案するなど組織体制を構築する。
子どもたちの健全育成	＜子どもたちの健全育成に向けた取組＞ ・不登校対策の実施・充実 ・教育相談の強化 ・hupaer-QUの活用	<ul style="list-style-type: none"> ・QUを活用し個々の生徒への取り組みや学級集団の特徴を捉え、望ましい学校生活になるよう効果的なアセスメントを実践する。 ・不登校生徒0、いじめ0を目指し、全教職員がスクールカウンセラーや関係諸機関、保護者と連携し、個に応じた丁寧な指導を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・校内研修でQUの理解を深める外部講師を招いた研修・QU学年検討会をそれぞれ年間2回実施する。 ・不登校生徒を前年度より減少させる。 ・SSWの活用率を前年度より増加させる。 	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・校内研修でQUの理解を深める外部講師を招いた研修を実施、QU学年検討会を実施した。 ・SSWの活用率を前年度より増加した。 ・不登校生徒出現率が前年度末の8.5%から現在は5.7%に減少している。校内別室支援配置を活用し、不登校生徒の居場所づくりを推進する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・不登校減少への取り組みをさらに充実させてほしい。 ・研修等で生徒への理解をさらに高め、健全育成への取り組みを充実させてほしい。 	不登校巡回教員を中心に関係諸機関と積極的に連携し不登校生徒の減少を目指す。 ・QUを活用し個々の生徒への取り組みや学級集団の特徴を捉え、日々の教育活動に活用していく。
	＜いじめ防止対策の充実＞ ・いじめの早期発見・早期対応・早期解決を組織的に行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめ防止アンケートを月1回実施し早期発見・早期対応・早期解決を組織的に、長期間にわたるいじめを防止する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・月1回のいじめ防止アンケートを実施する。 	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・月1回のいじめ防止アンケートを実施し、生活指導部を中心の迅速に活動している。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・継続してアンケート等の活用により今後もいじめの早期発見につとめてほしい。 	引き続き、いじめ防止アンケートを月1回実施し、早期発見・早期対応・早期解決を組織的に、長期間にわたるいじめを防止する。
地域に広く開かれた学校(園)の実現	＜自校(園)の取組の積極的な発信＞ ・学校(園)ホームページの充実等 ・学校(園)公開の実施・充実	<ul style="list-style-type: none"> ・学校教育活動の実際を保護者、地域の方々によりよく理解していただけるよう、定期的な学校公開を実施し、学校見学については随時受け入れる柔軟な対応をする。 ・学校だより、学年だより等はホームページだけでなくタブレット端末や連絡メールを活用し、積極的な配信を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページには日頃の学校生活について、毎日アップさせるようにする。 ・学校だより、学年だより等のタブレット端末・連絡メールを使用した配信を行う。 	B	C	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページには日頃の学校生活について、毎日アップさせるように全教員の意識を向上させる。 ・学校だより、学年だより等のタブレット端末・連絡メールを使用した配信を行った。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページ・テロ等効果的に活用し学校の情報を積極的に公開している。保護者・地域との連携に向け、今後も継続して情報発信をお願いしたい。 	ホームページ・テロ等で保護者・地域に向け積極的な情報発信を行い、本校の教育活動の理解していただき、効果的な連携につなげていく。
	＜学校関係者評価の充実＞ ・教育活動の改善・充実に向けた学校関係者評価の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・歴代PTA会長、地域協力者等の学校評議員に情報開示し、現状を知ってもらいご意見をいただく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校関係者評価における良好の評価80%以上にする。 	B	C	<ul style="list-style-type: none"> ・PTA会長と連携し、情報を共有している。さらに積極的に地域協力者等へ情報開示する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・学校評議員とさらに連携を図り、学校評議員の充実をお願いしたい。 	学校評議員への情報開示を積極的に行う。 ・PTA会長と連携し情報を共有し、PTAボランティア活動を通して本校を知っていただき、ご意見をいただく。
	＜PTA・おやじの会との連携の充実＞ ・PTA・おやじの会との連携の充実により、当事者意識もった学校運営への関わる意識の醸成。	<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事、学校図書館ボランティア活動、検定ボランティア活動を通して学校の現状を知っていただく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年間4回の学校公開の受付、年間6回の検定ボランティア活動の実施。 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・学校公開の受付、検定ボランティア活動の実施した。 ・PTA主催の給食試食会等を通し、積極的に学校運営に関わっていただく。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の現状を知ってもらえるPTAボランティアが非常に充実している。今後も保護者との連携を深めてほしい。 	年間4回の学校公開の受付、年間6回の検定ボランティア活動を通して教員・保護者との連携を図り、協力体制を強化していく。
特色ある教育の展開	＜学校における働き方改革プラン＞ ・「学校における働き方改革プラン」や「部活動の方針」に従った取り組みにより生徒と向き合う時間を確保する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ICTを活用した業務の効率化を図る。 ・採点ナビを使用した採点業務の負担軽減。 	<ul style="list-style-type: none"> ・朝の全体打ち合わせ内容をTeamsに保存活用する。 ・保護者参加確認等の集計をFormsを活用する。 ・採点業務に採点ナビを導入する。 	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・朝の全体打ち合わせ内容をTeamsに保存活用した。 ・保護者参加確認等の集計をFormsを活用した。 ・採点業務に採点ナビを導入した。教員の50%の利用を目指していく。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・教員の良好な体調が生徒指導の充実につながる。今後も業務の効率化を進めていただきたい。 	ICTを効果的に活用し、働き方改革のさらなる充実を図る。
	＜規範意識の向上＞ ・「みそあじ」運動による生徒の規範意識の定着	<ul style="list-style-type: none"> ・意識から実践へ移行ができるように生徒会による「みそあじ」運動の推進し、生徒主体の取り組みを充実させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会による全生徒への啓発活動を実施する。 	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・「みそあじ」運動による生徒の規範意識の定着を目指した活動を生徒会が実施している。さらなる定着を目指した生徒会活動の実施を目指す。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・あいさつができる生徒が多い学校である。今後も「みそあじ」運動の推進すると同時に、生徒主体の取り組みを充実させてほしい。 	生徒会が主体となった「みそあじ」運動を充実させ、生徒の規範意識の定着を図っていく。